

45-409

最新韓國實業指針

附 渡 航 案 內

東京 大阪

寶文館發兌

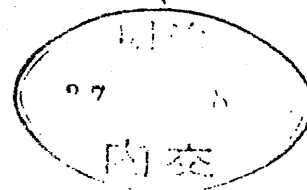
外務省政務局長
韓國政府農商工部顧問
法科大學教授法學博士
衆議院議員
衆議院議員

山座圓次郎序
加藤增雄序
戶水寬人序
佐友房序
柴四朗序

朝鮮協會理事長
朝鮮協會理事
衆議院議員法學士
朝鮮協會理事
朝鮮協會調查主任

日下川川
押川
小川
國友
岩永

義雄序
方義序
平吉序
重章序
重華編



針 指 業 實 國 韓

古群山島

一名隔音群島

江原道

蔚陵島
一名松島

く大陸の東南に折入れたる灣の北奥七八町の所にあり、本浦は舊時兪使の蒞治したる處にして、門樓の舊觀今尙存せり、風光明媚、湖山の景致誠に愛するに堪へたり、人家三百餘戸、海岸に櫛比し、商船漁船の輻湊常に絶へず、全羅西岸に於ける盛區にして、又た魚類の好販賣場なり、陰曆三四月の候、其前洋七山灘に饒産する石首魚の處理販賣は、概ね此地に於て取扱はれ、盛季に至れば各戸主悉く其取扱に従事し、頗る繁忙雜鬧を極む

古群山島 海圖之を隔音群島と配す、嶧島の北、竹島の南に在りて、良好の一港灣を構成し、艦船の碇泊に適す、本港は、韓國の西海面に於て樞要の位置を占むるを以て、日清戰役の際、一時我軍の根據港と爲さんとしたる所なり、灣内漁船の碇泊に適す、春季本邦及び清、韓漁船の輻湊するもの少なからず、就中支那漁船の重要根據港たり

江原道

蔚陵島 一に武陵又は羽陵と云ふ、古の干山國にして本邦人及支那人之を松島と呼ぶ、越松浦の南四十里の海上に在り、島の周邊岩礁磊砢として船舶を

針 指 業 實 國 韓

竹濱

厚利浦

ヤンコ島

水産 第二節重要なる沿海漁業地

二九四

碇繋する港湾に乏しく、唯僅かに一ヶ處の小漁船を泊するに足るべきものあり、地味膏腴にして大豆、大麥、小麥を産出す、就中大豆は外國輸出品の一人り、往時は全島樹木鬱蒼として美觀を呈せしも、濫伐の結果頗減少せり、近海魚族繁殖すれども、海水深くして捕獲するを得ず、韓人の戸數四百餘、本邦人の常住百四十餘ありて、純然たる日本村を形成せり、木材及大豆、石花菜の輸出を業とす

ヤンコ島 鬱陵島及我隱岐島の中間三十里の海上にあり、全島居民なし、沿岸碇泊に便なれども、薪材及飲料水を得難し、近海鮑、海鼠、石花菜等を産し、又隣の棲息饒多なれども、海馬の群に妨げられ、漁獲好果を得ずと云ふ

厚利浦 丑山浦を距る北四里の地に在り、西北風を避くるに至便なり、人家七十餘、漁農を營む、海岸に湧泉あり、船舶の給水所たり、鱧、鯛、鱒、鱈、蟹、河豚を饒産す

竹濱 灣口南東に向ひ北岸一丘の横はるありて、西北の風を避くべし、潜水業者多く、其南岸一帯里餘に亘る砂濱ありて、地曳網の好漁場たり

明治三十七年八月四日印刷

明治三十七年八月七日發行

朝鮮協會藏版

不許複製

最新韓國實業指針
附 附 波 航 案 內

定價 壹圓

著者

岩永重華

發行者

大葉久吉

發行者

吉岡平助

印刷者

青木弘

東京市日本橋區木石町三丁目十七番地

大阪市東區備後町四丁目七八番地

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

發兌元

東京市日本橋區木石町三丁目
大阪市東區備後町四丁目

寶文館

印刷所東京牛込株式會社秀英舍工場